

1 研究主題

「わかる・できる喜び」を味わわせる授業の創造
- 基礎的・基本的内容の定着と生徒が主体的に活動する指導の在り方の研究 -

2 研究主題について

本校では、「確かな学力」の育成に視点をあてて研究を進めており、授業の充実が図られ、生徒が落ち着いて授業に取り組むようになってきた。しかし、生徒が進んで発表したり、主体的に活動したりする場面は少なかった。

そこで、平成 18 年度から、基礎的・基本的な内容の確実な定着を目指した授業の更なる充実、生徒が目的意識を持って活動する場の設定や指導の在り方、それを支える学業指導や個に応じた指導の充実について研究・実践を進めることにした。これにより、生徒は基礎的・基本的な事項を身につけるとともに「わかる・できる喜び」を味わい、自ら主体的に学ぶ態度や課題を解決する能力を身につけることができるのではないかと考えた。

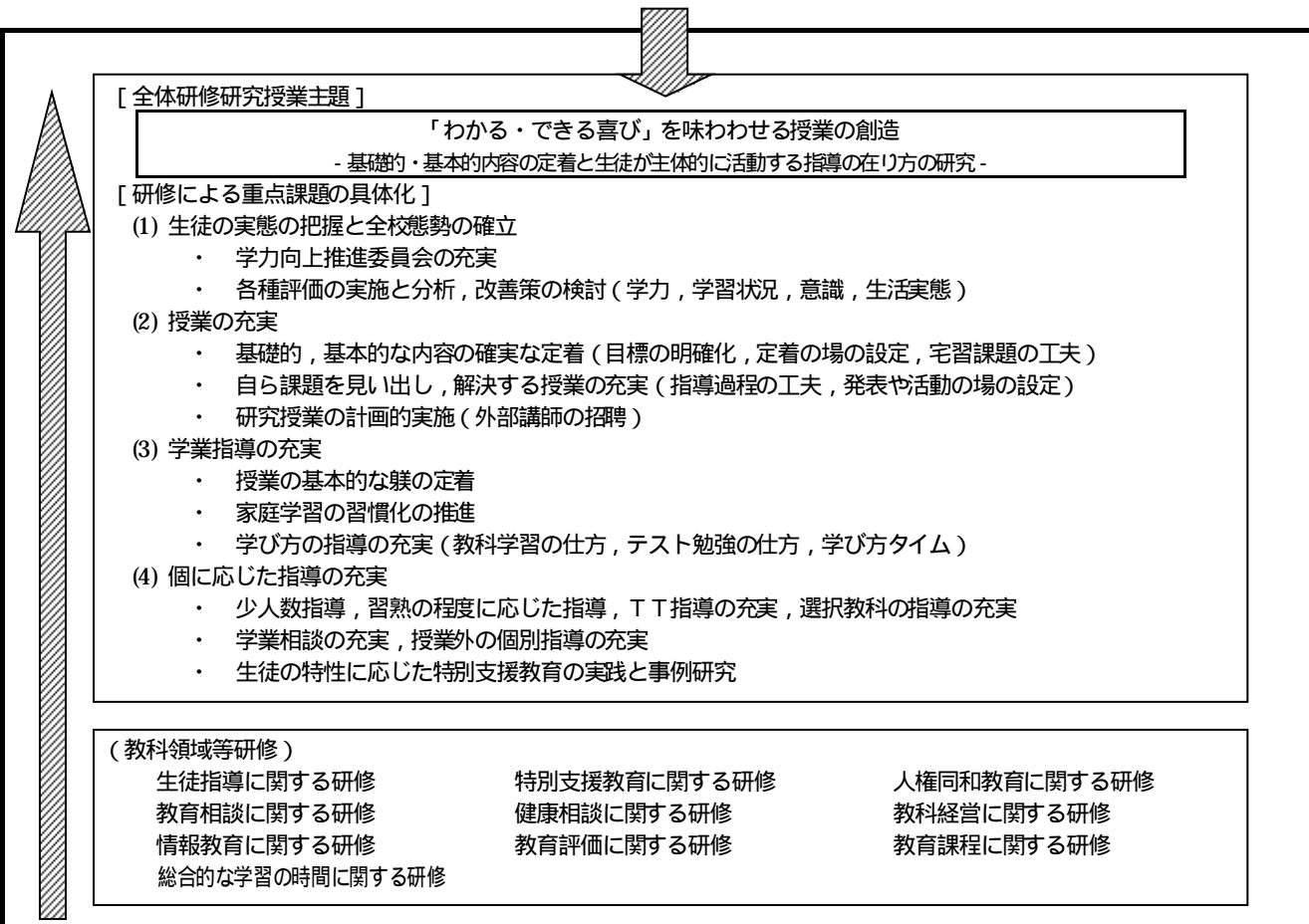
“主体的に活動する”とは
1 単位時間や 1 単元の中で、生徒が目的意識・問題意識を持って学習に取り組む。
学習活動を展開していく中で、生徒が自分の向上のため努力し、学習終了後に達成感を味わうことができる。
学習目標の提示、学習の段取りの設定と見届けを行う。

3 研修の全体構想

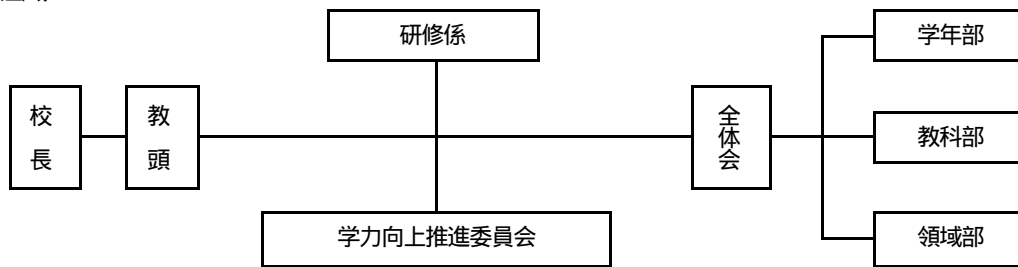
《学校教育目標》「生命に深くこだまする明和中の生徒を育てる」
- 礼節を弁え、感謝の心で気力を前面に出して主体的に行動する生徒の育成 -

【重点課題】 ~ 生徒自らが気づき、考え主体的に行動する学校の創造 ~

(1) 確かな学力の育成 (2) 心の教育の充実 (3) 生徒指導の充実 (4) 総合的な学びの推進 (5) 中小連携・地域連携



4 研修組織



5 今年度の取り組み

月	日	曜	研修項目	おもな研修内容	講師	担当
4	13	月	研究テーマ及び年間計画話し合い	テーマ及び年間計画の確認		研修係
			特別支援教育	年間計画の確認		特別支援教育係
5	11	月	生徒指導	家庭訪問後の共通理解事項の確認		生徒指導部
	29	月	小中連携研修会のための話し合い	学業，生活，特別支援に分かれ，中学校の現状，課題の検討		研修係
6	1	月	カウンセリング話法			教育相談係
	29	月	小中連携研修会	本年度は中学校会場		研修係
7	13	月	研修授業を通して（道徳）	生徒の主体的な活動を促す指導法研究		道徳部
	21	火	標準学力検査の分析の提案	分析内容の連絡と次時の確認		学力向上推進委員会
			生徒指導	不登校及び不登校傾向生徒への対応策		生徒指導部
8	3	金	健康教室（AED）	救命救急講習 - AED の使用法 -		保健係
	21	金	情報教育	パソコン研修(情報機器の活用法)		情報教育係
			セクハラ・パワハラについて			人権同和係
	28	金	標準学力検査の分析・学力向上	教科ごとの分析結果の報告及び2学期からの学力向上に向けての共通理解		学力向上推進委員会
9	7	月	特別支援教育	の成果確認及び対処法の共通理解		特別支援教育係
10	9	金	研究授業を通して（特活）	生徒の主体的な活動を促す指導法研究		特活部
11	9	月	研究授業を通して（教科）	生徒の主体的な活動を促す指導法研究		各教科部
12	14	月	進路指導	キャリア教育推進に向けての共通理解		進路指導係
1	25	月	人権同和教育	普段の生活における人権意識の向上		人権同和教育係
2	8	月	本年度の研修の成果と課題	次年度のテーマ及び取り組みの確認		研修係

6 研究授業の実施計画

実施年度	教科		道徳	学級活動
20年度	理科	美術	2年部	1年部
21年度	数学	保体		
22年度	英語	音楽	1年部	2年部
23年度	国語	技術家庭		
24年度	社会			
25年度	理科	美術	2年部	1年部

7 本年度の実践

(1) 本校の学力の実態把握

基礎基本定着度調査の分析と各教科の具体策の検討（4月）

標準学力検査(NRT)の分析の仕方についての研修の実施（8月）

標準学力検査(NRT)の分析と具体策の検討（8月下旬）

NRTの分析を基に、2学期からの学習指導に対する具体的な取り組みを各教科や学年毎に話し合った。

(2) 学力向上委員会の役割

開催日 - 毎月設定

構成 - 校長, 教頭, 学年主任, 学業指導係, 教科代表計7名

内容 - 学力に関する現状と課題・解決策の協議, 実践化に向けての具体策の検討

- ・ 学力の実態分析について
- ・ 家庭学習に関するアンケート分析
- ・ 学び方タイムの進め方について
- ・ 各教科・学年の取り組み事例の検討
- ・ 共通実践事項について等課題と解決策の協議

【成果】・様々な立場からの意見をもとに課題を明らかにし、実践への方向付ができた。

・学力に関する情報提供をすることで、学力向上に対する職員の意識も高まった。

・事前に打ち合わせをすることによって、会の内容が充実していた。

(3) 学び方を身につけさせる指導

授業の基本的な躰の定着

ア 年度始めに、授業中の基本的な約束について共通理解を図り、実践に取り組んだ。

イ 学力向上推進委員会で、まずは小さな共通実践が学力を高める第一歩であると考え、授業の始まりや終わりの行動の在り方について再確認等をし、共通理解・共通実践を図っている。

家庭学習の習慣化の推進

ア 毎日の家庭学習の目標（1・2年 2時間, 3年 3時間）

イ 3点セット, 4点セットの提出（生活の記録, 英語の宅習, 漢字練習）

学び方の指導の充実（教科学習の仕方, テスト勉強の仕方, 学び方タイム）

ア 「学び方タイム」（年間4回）の設定と充実

総合的な学習の時間(4時間)に、学業指導の時間「学び方タイム」を設定した。

	1年	2年	3年
1	学習の仕方を学	家庭学習の仕方を学ぶ	中間テストに向けて計画を立てる
2	家庭学習の仕方を学ぶ	調べ学習の仕方を考える	家庭学習について考える
3	テストの予想問題をつくる	苦手教科の克服をする	入試までの目標を立てる
4	テスト結果の分析をする	厚物の活用の仕方を考える	入試までの学習の仕方を考える

(4) 授業での実践

基礎的・基本的な内容の確実な定着

各教科で学習目標を必ず板書するよう共通理解し、学習過程に定着の場を位置付けたり、宅習課題の出し方について共通実践を図ったりしている。

生徒が自ら課題を発見し、解決する授業の充実

各教科で指導過程を工夫したり、発表や活動の場を設定したりしている。

研究授業の計画的実施

全職員による研修を推進するために、研究授業の日は5時間授業で生徒は下校させ、6校時に研究授業を設定し、放課後授業研究を実施した。

ア 道徳研究授業(1年)・・・7月14日(火)実施

主題名「思いやりの心、感謝の気持ち」

資料名「淳子ちゃん、ありがとう」

イ 指導目標

- ・内容項目2-(2) 主として他の人とのかかわりに関すること。温かい人間愛を深め、他の人々に対し、思いやりの心をもつ。

個に応じた指導の充実

ア 少人数指導，TT指導の充実，選択教科の指導の充実

(ア) 習熟度の程度に応じた指導(2・3年数学，2・3年英語)

全時間2クラスを3コース，または1クラスを2コースに分け，少人数でそれぞれ指導

- ・2年基礎基本コース，総合コース
- ・3年基礎基本コース(1コース)，総合コース(1コース)，演習コース(1コース)

《コースの決め方》

生徒・保護者の希望をもとに決定するが，必要に応じて担当教師も相談を行う。途中でコースを替わることもできる。

(イ) TT(チームティーチング)

理科実験を中心に実施1年各学級週2回

1年各学級週2回英語の授業

【成果】・習熟の程度に応じた指導，少人数指導等を実施し，個に応じたきめ細かな指導ができるようになった。

- ・生徒の習熟の程度に応じた指導を実施し，生徒の学習に対する意欲も深まり，真剣に取り組む生徒が増えた。
- ・理解不足の生徒に対して，時間をかけて指導でき，授業への集中力や意欲が増してきた。
- ・理解の早い生徒やコースは，応用的な問題にも取り組ませた。
- ・少人数による指導で，発表や活動の機会が増え，生徒が学習に意欲的に取り組み，集中するようになった。
- ・TTは授業を二人の教師で指導するので，机間指導や実験等でのきめ細かな指導ができるようになった。

学業相談の充実

- ・ 学び方タイムでの個別相談の実施
- ・ 定期的な教育相談の実施 1 学期(5 時間) , 2 学期(5 時間)
- ・ 数学科の習熟の程度に応じた指導のコース選択や選択教科のコース選択等においては、随時相談を実施
授業時間外の個別指導の充実
- ・ 始業前、昼休み、放課後等に随時個別の指導に当たっている。
- ・ 学年で期間を決めて、放課後に定着の不十分な生徒の指導を分担して行っている。
授業についての教師の自己評価と生徒のアンケート、外部のアンケートの実施
- ・ 教師の授業改善と生徒の学習への取り組みの改善を図るために、全職員の自己評価、全学級のアンケート、各教師 1 クラスのアンケートを毎学期実施している。また、PTA 役員、学校評議員によるアンケートも年 1 回実施している。教師が自分の授業の改善の視点を得る上で有効である。

8 今後の課題

- (1) 教師・生徒を対象に実施した授業に関する評価やNRTの分析の結果、定期テストの結果を真摯に受け止め、生徒が積極的に授業へ取り組めるような指導の改善・工夫をしていきたい。
- (2) 評価後の分析と手立てを工夫することによって、評価と指導の一体化を図りながら、基礎・基本の定着や生徒自ら課題に取り組ませるために、日々の授業の更なる充実を図っていきたい。
- (3) 生徒の学習意欲を高め、活気のある授業をつくる工夫が必要である。
- (4) 職員研修の時だけの話し合いで終わらないようにするために、教科や学年、係会等で具体化への話し合いをし、共通理解事項を組織的に実践できるようにしたい。
- (5) 特に教科部会の充実を図り、指導内容や指導方法等について深く研究し、お互いの授業力を高める取り組みを推進したい。